

## 未公開史料&新出文書を一挙大公開！

じつに200年間以上も続いた近世日本の長期平和。もし江戸時代に対外戦争が引き起こされ、また戦国時代のような内戦へと逆戻りしていたなら、日本とアジアの近代史はまったく違ったものになっていたことでしょう。世界史的に見ても稀な長期平和状態、すなわち「天下泰平」の世の中は、どのようにかたち作られ、維持されたのでしょうか。日本史研究の最大のテーマの一つです。

細川家二代忠興(1563～1646)と三代忠利(1586～1641)は、戦国の動乱から泰平へと歴史が動く、まさに日本史上の大転換の最前線にいました。本展では、豊臣秀吉の天下統一、関ヶ原合戦、九州への転封・国づくり、島原天草一揆までを豊富な歴史資料によって展覧し、江戸時代における「天下泰平」確立の秘密を探ります。

加えて、どうけさこん 道家左近やつきやまひょうご 築山兵庫など、忠興・忠利を支えた個性豊かな細川家臣の活躍ぶりも、昨年の熊本地震後に見出された新出文書等から読み解いていきます。

激動の時代から泰平の世に生きた細川家や地域の人々の生の声を、大名家随一の史料を通してご堪能ください。

## 熊本大学永青文庫研究センターとは

永青文庫は、約5万8千点に及ぶ歴史資料を熊本大学附属図書館に寄託しています。そこには、室町幕府で要職を務めた細川家にかかわる文書や、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康など天下人が細川家に発給した文書といった「御家の資料」、熊本藩を統治していた時代に蓄積された「藩庁史料」など、歴史を語るうえで欠かせない文書類が多数含まれています。永青文庫研究センターは、これらの資料の総合的な研究を通じて、当該資料に立脚した拠点的研究を組織し、また地域文化の振興に貢献することを目的として、2009年に熊本大学に設置されました。2018年4月には設立10年目を迎えます。



【写真】熊本大学附属図書館に寄託されている永青文庫の歴史資料

### ■ 開催概要

展覧会名：平成29年度冬季展 熊本大学永青文庫研究センター設立10周年記念  
細川家と「天下泰平」－関ヶ原からの40年－

会 期：2017年12月9日(土)～2018年1月28日(日)

開館時間：10:00～16:30(入館は16:00まで)

休館日：毎週月曜日(但し1/8は開館し、翌日休館)、年末年始(12/25～1/5)

会 場：永青文庫(東京都文京区目白台1-1-1)

入 館 料：一般800円(※700円)、シニア(70歳以上)600円(※500円)、大学・高校生400円、中学生以下無料

※は10名以上の団体料金。障害者手帳をご提示の方およびその介助者(1名)は無料。



## I 慶長5年の内戦と忠興・忠利

### 関ヶ原から九州転封へ

徳川家康に急接近した細川忠興は、関ヶ原で奮戦。その論功行賞として豊前国と豊後国二郡を与えられ、丹後宮津十八万石から一躍三十九万九千石の大大名となります。一方、忠興の三男・忠利も家康への忠誠の証(人質)として江戸に送られ、独自の役割を果たしていました。関ヶ原前後のドラマを史料で辿ります。

### 忠興・忠利と結ばれた家臣たち—道家家と築山家の新出文書—

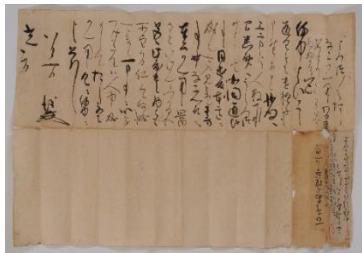
細川家が京都から丹後、豊前・豊後、そして肥後へと加増転封されていく過程で、多くの武士たちが忠興・忠利と主従の関係を結びました。本展には、家臣の家に伝わった「道家家文書」と2016年の熊本地震による被災家屋の中から見出された「築山家文書」を初出品。特に築山家は淀に拠点を維持しながら幕末まで細川家に仕え、九州大名となった細川家と京・大坂とをつなぐ役割を果たしていました。藩外で遠隔地の国持大名の家臣として活動していたという事実は、熊本大学永青文庫研究センターによって全国で初めて確認されました。

## II 忠利の家督継承と国づくり

慶長9年(1604)に家康から家督継承者に指定された忠利は、元和7年(1621)に豊前国・小倉城、続いて寛永9年(1632)に肥後国・熊本城に入り、九州で国づくりを始めます。忠利は、優秀な人材を積極的に奉行に登用したり、百姓の権利を主張したりするなど、地域の秩序や調和を維持・改善していくために力を尽くし、天下泰平の礎を築きました。

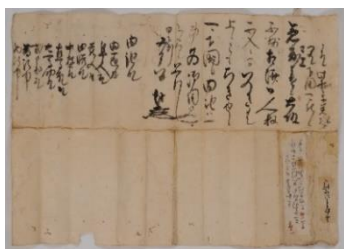
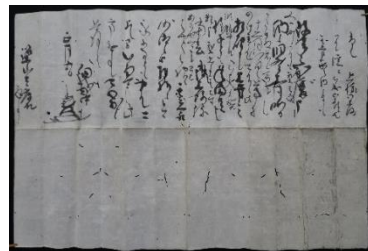
## III 島原・天草一揆と「天下泰平」

忠利は肥後への入国に際して土一揆に攻められることを警戒していました。入国後まもなく、寛永14年(1637)10月、島原・天草一揆が発生し、幕府は細川家を含む周辺大名に出兵を命じ収束をはかりました。この一揆は、領主に対して武器を行使したという点で「最後の土一揆」といわれています。その後、なぜ長期にわたって武器の行使が抑制され、泰平の世を維持できたのか。展示品から近世社会における「天下泰平」の意味を考えます。

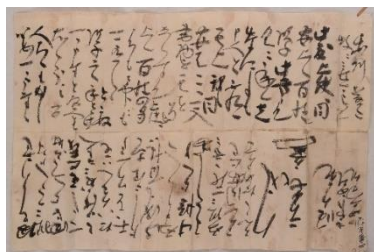


細川忠興自筆書状 慶長5年(1600)8月1日  
永青文庫蔵(熊本大学附属図書館寄託)  
息子・忠利に徳川秀忠への奉公を命じる

細川忠利書状 築山兵庫宛  
寛永11年(1634)正月五日 個人蔵  
新出文書!  
将軍家上洛に際して、  
細川家の淀での宿所を調達する築山家



細川忠興自筆書状  
慶長20年(1615)5月8日申下刻  
永青文庫蔵(熊本大学附属図書館寄託)  
忠興の眼前で大坂落城!



細川忠利自筆達書 寛永11年(1634)2月17日  
永青文庫蔵(熊本大学附属図書館寄託)  
お殿様、百姓の権利を主張する



有馬の絵図 寛永15年(1638)  
永青文庫蔵(熊本大学附属図書館寄託)  
島原天草一揆の現場で描かれた  
生々しい原城見取り図

### ■記念講演会「天下泰平」の確立と細川家

日時: 2017年12月10日(日)14:00~15:30

講師: 稲葉 継陽 氏(熊本大学永青文庫研究センター長)

会場: 肥後細川庭園 松聲閣(東京都文京区目白台1-1-22)

定員: 40人(先着順)

参加費: 1000円(友の会会員800円) ※税込。当日、現金でお支払いください。

申込方法: 11/12(日)午前10:00より電話(03-3941-0850)にて先着順に受付

【お問い合わせ】 公益財団法人 永青文庫

〒112-0015 東京都文京区目白台1-1-1 TEL: 03-3941-0850 FAX: 03-3943-0454

平成29年度冬季展 熊本大学永青文庫研究センター設立10周年記念  
細川家と「天下泰平」 広報画像申請書

2017年12月9日(土)～2018年1月28日(日)

貴社名:

媒体名:

ご担当者名:

ご所属:

TEL:

FAX:

ご住所:

E-mail:

掲載予定日: 年 月 日

掲載概要:(コーナー名、画像の掲載サイズなど)

◆ご希望の写真番号に○を付けてください。



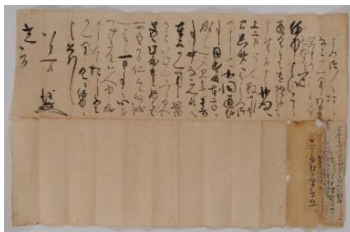
1 細川三斎(忠興)像  
乾英宗単賛  
寛文10年(1670)  
永青文庫蔵



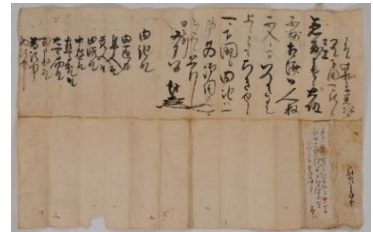
2 細川忠利像  
沢庵宗彭賛  
寛永21年(1644)  
永青文庫蔵



3 島津龍伯血判起請文 天正16年(1588)8月27日 永青文庫蔵(熊本大学附属図書館寄託)



4 細川忠興自筆書状 慶長5年(1600)8月1日  
永青文庫蔵(熊本大学附属図書館寄託)



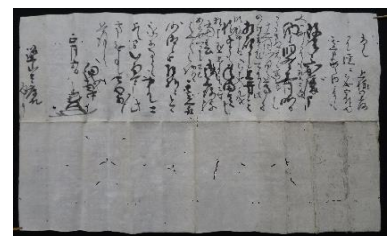
5 細川忠興自筆書状  
慶長20年(1615)5月8日申下刻  
永青文庫蔵(熊本大学附属図書館寄託)



6 細川忠利自筆達書 寛永11年(1634)2月17日  
永青文庫蔵(熊本大学附属図書館寄託)



7 有馬之絵図 寛永15年(1638)  
永青文庫蔵(熊本大学附属図書館寄託)



8 細川忠利書状 築山兵庫宛  
寛永11年(1634)正月五日 個人蔵

【広報画像ご使用に際してのお願い】

※写真の使用は、本展覧会のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。

※展覧会名、会期、会場、作品名称、所蔵者を必ずご掲載ください。

※掲載誌は1部ご惠贈願います。

【個人情報の取扱いについて】

※ご記入いただきました個人情報は、当館からの展覧会情報のご案内にのみ使用いたします。

許可なく第三者に個人情報を開示することはありません。